

令和8年度 東京都立小笠原高等学校 学校経営計画

I 目指す学校像

1 スクール・ミッション

「自主と自律」、「感謝と共存」、「礼儀と信頼」を目標とし、個に応じた指導、地域と連携した体験的・文化的な活動3年間の体系的なキャリア教育といった教育活動を通じて、「世界自然遺産・小笠原諸島」の豊かで貴重な自然の中で育まれた生徒の健やかな成長と、地域の発展に貢献できる人間の育成を目指す。

2 グラデュエーション・ポリシー

豊かな自然・文化を背景とした望ましい集団活動を展開することにより、規範意識と自律性、道徳性を備え、他者への配慮や思いやりの心を持ったグローバル人材を育成する。

3 カリキュラム・ポリシー

- (1) 小規模・少人数学級の長所を生かしたきめ細やかな教育活動を実践し生徒の進路実現を目指す学校
- (2) 基礎・基本の定着と言語活動の充実を図り、思考力を育成する学校
- (3) 体験活動等を通じて主体的に探究し、未来を切り拓く力を備えた生徒を育成する学校
- (4) 人権尊重の精神と規範意識を身に付けることができる学校
- (5) 家庭や地域とともに生徒を育て、小笠原の青少年健全育成の拠点となりうる学校
- (6) 自然との共存について学ぶことで、「世界自然遺産小笠原」を世界に発信し、将来活躍する場から郷土小笠原に還元できる人材を輩出する学校

4 アドミッション・ポリシー

- (1) 学習活動に自主的、積極的に取り組む生徒
- (2) 大学等への進学、就職、留学など、自己の進路に対する高い目的意識を持ち、努力する生徒
- (3) 学校生活、部活動、学校行事、地域の活動等に積極的に参加する生徒
- (4) 挨拶、身だしなみ、言葉遣い、時間を厳守する等の学校や社会のルールを守る生徒
- (5) 互いを認め合い、理解し合い、相手の立場に立ってものを考える生徒
- (6) 小笠原の自然を愛し、慈しみ、その素晴らしさを学び伝えようとする生徒

II 中期的目標と方策

1 生涯にわたって学び続ける力の育成を軸に、自己実現を支える進路指導体制の確立を目指す。

- ・ 生徒の実態に基づいた学力の組織的把握と指導方針の共通理解を図り、教員研修会の実施、教科会による授業評価、定期考査・模擬試験等の結果分析を実施して、組織的な学力向上の仕組みを構築する。
- ・ 小笠原の環境を活かし、本物体験や教科横断型授業を推奨し、実社会で生きて働く思考力・判断力・表現力を育み、主体的に課題に向き合う生徒を育成する。
- ・ 進路、進学多様校の本校の実態に応じた体系的なキャリア教育全体計画を策定し、教職員全体の理解のもとに生徒一人ひとりの第一進路希望実現を目指す。

2 習熟度別授業や少人数授業を実施して、基礎・基本の定着を図るとともに、外部教育プログラムを活用して、家庭学習を習慣化させる。

- ・ 毎日の授業を大切にして、習熟度別による授業、年間をとおした補習・講習を計画的に行い、生徒の基礎学力を向上させる。
- ・ ICTを活用した授業や実験・観察等の体験的・問題解決的な学習、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業など、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる授業方法や教材を工夫し、実施する。

- ・ 教員相互の授業見学や研究授業を通して、授業力の向上に教員一人一人が取り組む。
- 3 「海外学校間交流推進校」として交流や発表活動等を充実させる。
 - ・ 自己を確立しつつ他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と協力・協働しながら課題を解決する力を身に付けさせる。
 - ・ 姉妹校提携を結んだ、グアム島ジョージ・ワシントン・ハイスクールとの交流も推進し、自ら進んで積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や豊かな国際感覚の醸成、総合的な英語力の育成などに加え、多くの外国の人々と交流する機会を増やし日米の懸け橋となる人材の育成を期す。
 - 4 総合的な探究の時間を構築し、小笠原の特色や進路実現につながる組織的・計画的な推進を図る。
 - ・ 小笠原の自然や文化を学び、広く世界に発信することによりプレゼン力を高める。
 - ・ よりよく課題を解決することを通して自己の生き方を考え、進路意識の向上を図る。
 - 5 基本的な生活習慣を確立し、礼儀と規律を尊重する態度を育成し、体力向上と健康増進を図る。
 - ・ 卒業後の進路を意識できるようにし、挨拶や身だしなみ、言葉遣い、時間を守るなど、基本的なマナーや規範意識を身につけさせる。
 - ・ 睡眠、運動、食事、休養のバランスの取れた基本的な生活習慣の確立を徹底し、健康で充実した学校生活を送れるよう、教科と健康指導等の特別活動を連携させ、健康維持と体力の向上を組織的に図る。
 - 6 社会との関わりを意識し、人として成長するための良い習慣を身に付けさせる。
 - ・ 豊かな人間性を培い、健全な心身を伸長させるために、生活全般における指導方針や指導方法を全教職員が共通理解のもと、組織的・計画的な指導を行い、基本的な生活習慣と世界に通用するマナーを身に付けさせる。
 - ・ 生徒のウェルビーイングを高め、安心して学べる教育環境を整備する
 - 7 開かれた学校、地域から信頼を得る学校づくりを推進する。
 - ・ 生徒・保護者及び地域の視点に立った学校経営を推進するとともに、教育活動の情報発信を充実させることで「学校の見える化」を進める。
 - 8 母校に誇りをもち、人生の目標に向かって努力しようとする力を育成していく。
 - ・ 特別活動の充実を図り学校行事や各部活動の大会等を目標にして行う日々の準備・練習等の実践を重視し、生徒の主体的な活動を推進する。
 - ・ 連合運動会、ロードレース大会などの地域的行事に取り組むことで地域の子どもたちの手本となるの生徒を育成する。
 - 9 危機管理を常に行い施設が適切に使用でき教育活動が滞ることを生じさせないようにする。
 - ・ 小笠原という特殊な環境を踏まえ、教員・経営企画室相互の適切な情報交換に努めると共に中部学校経営支援センターと連携を密にし、職務の効率化を図り学校経営の基盤をより強化する。
 - 10 教職員のウェルビーイングを高め、持続可能な学校組織を構築する。
 - ・ 組織的・計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員の「ライフ・ワーク・バランス」を推奨する。

Ⅲ 今年度の取り組み目標と方策

1 学習指導

- (1) 習熟度別授業や少人数授業を活かし、学ぶ喜び、成就感、達成感を体得させ、基礎・基本の確実な定着と学力の向上を図る。
 - ・ ICTを活用した授業や実験・観察等の体験的・問題解決的な学習、アクティブ・ラーニング等、授業方法や教材を工夫し、実施する。
- (2) 自主学習習慣の定着を図るための方法を検討し、実践し自主的に学習に取り組む態度を育成する。
 - ・ 放課後学習や缶詰学習会等を活用した学習ルーティンの確立
 - ・ 効果的かつ継続的な課題配信等の工夫

- (3) 「教科マネジメント」の構築を行い、学力の一層の定着を図る。観点別評価の適切な実施と指導と評価の一体化を図る。
- ・ 相互参観・研究授業の活性化: 同教科または異教科間での日常的な授業参観を行い、指導法を相互に学ぶ。
 - ・ 生徒の変容の分析や学習診断などの結果や生徒の活動の様子から、指導効果を客観的に評価する。

2 進路指導

- (1) 3年間を見通した系統的かつ組織的な進路指導の見える化を推進する。
- ・ 大学等、外部機関の有効活用により、進路ガイダンス、進路説明会を計画的に取り組む。
 - ・ 小笠原村教育委員会が主管する「おが高生未来の夢応援プロジェクト」への積極的な参加を促し進路実現や自己実現につながる機会を提供する。
- (2) 生徒がオンライン学習や各種検定、外部テストを受けることで、自分の実力を客観的に理解し、弱点を克服できるようにする。また、それによって自己理解と望ましい職業観を育成する。
- ・ スタディサプリの活用
 - ・ 英語検定取得を推奨する。
- (3) 多様な進路指導
- ・ 「学校推薦型選抜」「総合型選抜」で必要な面接指導や小論文指導等を学校全体で取り組む。
 - ・ 保護者にも参加してもらい、進路意識を高める。

3 生活指導・安全指導

- (1) 東京都生活指導統一基準を基に、挨拶の励行、時間を意識して行動できるようにするために遅刻指導等の学校生活における基本的な生活規律を適切に指導し、規範意識と自律心を育む。
- ・ 時間厳守の基本である登校時間を守らせ、生徒の遅刻防止につなげるとともに提出物の提出期日を守らせる。
- (2) 登下校時の交通ルール、特に原動機付自転車及び自転車通学者への道路交通法の周知及び遵守の徹底を図り、事故を未然に防ぐ。
- ・ 定期的な登下校指導を実施する。
 - ・ 小笠原警察署と連携した交通安全教室を実施する。
- (3) 組織的・計画的に取組を促進することで、自他の生命を尊重し、安定的に心身の状態を維持しながら学校生活を送れるように支援する。
- ・ 教育相談体制として「生徒支援委員会」を定期開催し全校での教育相談体制を確立する。
 - ・ お互いに思いやる気持ちを醸成し、本校のいじめ防止基本方針を踏まえ、生徒間のいじめ防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組む。
 - ・ 2名のスクールカウンセラーを活用した校内研修等を通じて、学校の相談体制・教員のカウンセリングマインドの向上を推進する。
- (4) 生涯を通じて生徒が、自らの健康や環境を管理し、改善していくための資質・能力を育成する。
- ・ 産婦人科医と連携したライフプランと健康との関わりに関する授業の実施と公開を行う。

4 特別活動・部活動

- (1) 学校行事を充実させるとともに、生徒一人一人の特性に応じて活動できる場を確保し、成就感や達成感を体得させる。
- ・ 効率的かつ生徒の自主性を重視した活動を計画的・継続的に実施し、地域や小中学校、外部と連携した活動を実践する。

- (2) 連合運動会やロードレース大会において小中学校や地域と連携し、生徒が主体的に活動するとともに地域をリードできるように育成する。
 - ・ 事前準備や振り返りを丁寧に行い、達成感、協調性を醸成する。
- (3) 地域の行事へ積極的に参加し、ESD 活動を推進して環境教育や美化・清掃活動の活発化を図るなどして社会性及び社会に貢献する姿勢を育む。
 - ・ 小笠原の諸機関との連携を密に行い、活動を生徒、保護者に発信する。

5 地域連携・広報活動

- (1) 生徒会や部活動を中心として地域の行事へ積極的に参加し、「地元の小学生や中学生が憧れる学校」となることを目指す。
- (2) 地元の中学生・保護者向け進路相談会や関係学校との授業交流、生徒の活動成果報告会、及び授業公開の取組により、本校への理解を広げる。
- (3) 地域と連携した総合防災訓練を行うことで、自助・共助の精神を培う。

6 学校経営・組織体制

- (1) 組織的な学校経営を推進するために、全教員の情報共有を徹底する。また、業務の効率化を推進し、都の制度活用を周知したりすることでライフ・ワーク・バランスの推進を図る。
- (2) 「海外学校間交流推進校」として、英語科の協力のもと、国際交流委員会において、オンライン交流や海外研修旅行、高校生海外派遣事業への応募など、異文化理解や多文化共生を充実させる。
- (3) OJT を活用して人材育成を図り、課題解決に取り組む活気ある校内体制をより推進する。
- (4) 教育公務員としての使命と職責の重さを自覚し、体罰の禁止や汚職等非行防止研修で服務規律の理解を深め、服務事故を未然に防ぐ意識を高める。

IV 重点目標と数値目標

1	学習指導	R7 数値	R8 目標値
(1)	授業満足度の肯定回答率	89.6%	100%
(2)	土曜講習等受講者延数	62名	65名以上
(3)	スタディサプリ アクティブ生徒率 月平均	44.5%	60%以上

2	進路指導	R7 数値	R8 目標値
(1)	進路決定率 100%	80%	100%
(2)	進路先訪問延人数	—	70人以上
(3)	英語検定準二級以上受験者延数	27名	30名以上

3	生活指導・安全指導	R7 数値	R8 目標値
(1)	ルール・規律の遵守率	73%	80%以上
(2)	年間総遅刻回数	207回	100回以下
(3)	健康に関する意識向上(肯定的回答率)	—	95%以上

4	特別活動・部活動	R7 数値	R8 目標値
(1)	生徒の学校行事の満足度の肯定回答率	94%	100%
(2)	生徒の生徒部活動満足度の肯定回答率	87%	100%
(3)	生徒の小中連携達成度	92%	95%以上

5	地域連携・広報活動	R7 数値	R8 目標値
(1)	小中高校連携活動	16回	18回以上
(2)	HP 更新数	75回	100回
(3)	生徒の地域への積極的な関わり(保護者・地域からの肯定的回答)	80%	90%以上

6	学校経営・組織体制	R7 数値	R8 目標値
(1)	生徒の学校満足度の肯定回答率	94%	100%
(2)	地域中学生の高校に対する親しみと信頼感(肯定的回答率)	90%	95%以上
(3)	職員のライフ・ワーク・バランスの実現を図っている(肯定回答率)	50%	75%以上